



# Weekly Michael's News

2018年11月26日発行 No.89

## <今週の聖句>

『二人が子ろばを連れてイエスのところに戻って来て、その上に自分の服をかけると、イエスはそれにお乗りになった。多くの人が自分の服を道に敷き、また、ほかの人々は野原から葉の付いた枝を切って来て道に敷いた。そして、前を行く者も後に従う者も叫んだ。「ホサナ。主の名によって来られる方に、祝福があるように。我らの父ダビデの来るべき国に、祝福があるように。いと高きところにホサナ。』

(マルコによる福音書 11:7)

## <一人ひとりが持つかけがえのない命、その底力を学ぶ「秋のチャペルウィーク」開催!!>

先々週からチャペルは1年生の姿で賑わいを見せています。その理由は「秋のチャペルウィーク」が開催されているからです!! 春のチャペルウィークはキリスト教ガイダンスでしたが秋はもう少し視野を広めて『命』（これもキリスト教の重要なテーマです）を主題に話をしています。学院創立者の八代斌助師父は、「キリスト教を土台とした経済学」の発展を願っておられました。現代社会では、児童や高齢者の虐待、痛ましい殺人や自殺など『命』を軽視するような事件が後を絶たない残念な側面があります。しかし、そのような闇の力に対してしっかり打ち勝つ力、人間だけが持つ隣人と繋がろうとする姿勢や生き様を改めて見直しています。



年末お馴染みの「歓喜の歌」を斉唱



すごく集中してくれています



テーマはかけがえのない「命」

## <キリスト教講座は大盛況!! 神戸大学の宮下先生をお迎えして『食』を見つめ直す!!>

先週末、大学創立50周年記念事業の一つとして、キリスト教講座を開講しました。講師に宮下規久朗先生（神戸大学大学院教授）をお迎えして『最後の晩餐』と「食」の美術』をテーマに、古代から現代までの幅広い西洋美術の歴史や美術と飲食の意外な関係、特に現代社会でも大きな課題となっている「食」との関連で、大変有意義なお話を伺う事ができました!!



休日でも多くの参加者が集いました



ユーモアを交えての講演



近藤センター長と感謝の記念撮影

## ＜先週のメッセージ＞

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

11月19日(月) テーマ:「競争の裏側にあるもの」

野間 光顕(チャプレン)

地域おこし等に使われるマスコット「ゆるキャラ」が最近ゆるくないと話題だ。というのも生み出される経済効果の大きさに注目に集まっているからだ(ちなみに「くまモン」による利益は昨年度1400億円!!)。親しみやすいキャラクターをアピールに生かす事が目的であったはずなのに、そこから来る経済効果、また市長らの市政運営評価を狙っているのかPCを使った「組織票」作戦が展開され物議を醸している。イエスの時代、社会を牛耳っていた宗教家ファミリー派は絶大な権力を誇り、民の信仰心を支える使命を忘れて自らの利益の増大に腐心し真の救世主であるイエスを殺そうと企んだと記されている。いつの時点においても目的と自己利益が同一化した時に人間は醜い姿を晒す弱さを持つ。目的と意味が乖離してしまったモノをたくさん抱える社会の中で、今一度聖書の伝える普遍的なメッセージをしっかりと心に留めたい。

11月20日(火) ※この日は音楽礼拝!! オルガンの会 秦 啓子さんの素敵な演奏に耳と心を傾けました。次回は、11月27日(火)です!!

11月21日(水) テーマ:「プレイヤーズファーストについて」 西畑 賢治(経済学部)

ハンドボールの指導を長年続けているが、最近「プレイヤーズファースト」なる言葉が重要視されるようになった。特にスポーツの指導者には、目の前の勝敗よりも、選手がその競技を生涯の喜びとできるような指導が求められている。しかし実際には、未だに失敗に対し厳しい叱責や暴言が飛び事が少なくない。最近では保護者の存在も大きくなってきており、観客席から審判に文句を言うケースもある。先日ある選抜大会を観戦し感動した。そこではそれぞれのチームが一つひとつのプレーに喜びを表し、失敗した選手にも笑顔で激励していた。何より試合に敗れても選手の健闘を称える拍手が起こっていた。指導者は、その競技を研究するだけでなく選手の人間的な幅を広げ、引き出しを増やす、そして自主性を育てる指導が求められる。

11月22日(木) テーマ:「マラソン・駅伝シーズン始まる」 中井 久純(リハビリテーション学部)

冬が近づき、今年もマラソン・駅伝シーズンが始まった。市民マラソンではロンドンやボストンが有名だが、日本では2007年に東京マラソンが初めて行われ、これが市民参加型マラソンとして大成功、以降全国で市民マラソンが広がった。ここ、神戸でも11月18日に神戸マラソンが行われ、本校の学生20名がボランティアとして大会運営に携わった。全国高校駅伝兵庫県代表は男女とも強豪西脇工業と須磨学園が選ばれた。両校とも優勝を狙える実力校である。3大大学駅伝は出雲駅伝、伊勢駅伝、箱根駅伝であり、来年1月2日・3日箱根駅伝が行われる。優勝候補青山学院大学を中心に激しい戦いが繰り広げられる。これからが楽しみだ。

11月23日(金) テーマ:「課題から見えるもの」 濱田 真誠(リハビリテーション学部3年)

今年の2月に実習を行った。貴重な機会であるのと同時に、ミスが許されない、緊張感が求められる生の現場だったが、病院に勤務しておられる理学療法士の方々とうまく人間関係を築く事ができなかった。失敗に対して、何もできない自分に強い不安を抱えるようになった。そのような体験から私は、自分の抱える課題を強く意識できた。友人や先生方もその課題をクリアする為に協力して下さっている。この奨励も自分の発言に自信を持ちたいという願いから行っている。今日の聖書では、皆が抱える課題に対し神がそれぞれを支え、助けて下さる事が示されている。これまでの経験、そしてそこから与えられた発見や成長、そして自分を支えて下さる存在への感謝を覚えながら、来週からの実習に臨みたい。(文責:野間 光顕)

